

南アフリカ

エイズや格差とともに暮らす人々が自信を持てるように



未来への
バトンをつなぐ

アパルトヘイトの終焉から20年経った現在も黒人社会の非就業率は約60%にも上り、貧富の差は広がり続けています。さらに人口の約12%がHIV（エイズウイルス）に感染し、毎日500人を超える人がエイズで亡くなっています。一方で、以前は死に至る病気だったHIV/エイズは、2004年に開始された公的医療機関でのエイズ治療薬（ARV）無料支給が定着してきたことで、感染していても長年生きることのできる病となり、求められるケアや対策も変化しつつあります。



将来を担う青少年をサポートする地域づくりが進んでいる



HIV/エイズとともに生きる人々を支える

住民参加型 HIV/エイズ予防及び陽性者支援プロジェクト（リンポポ州ベンベ郡）

リンポポ州ベンベ郡において現地NGO「LMCC」と「チルンザナニ」と協働し、「住民参加型HIV/エイズ予防啓発活動およびHIV陽性者支援強化事業」を実施しています。

2016年度は事業開始から4年目を迎え、2015年度に実施した事業評価の結果、一部の活動について持続性に不安が残る一方、成果の先に新たに増えてきた課題と可能性に対応する意義があるとして、事業期間を2017年上半期まで延長することが決まりました。

2016年度報告

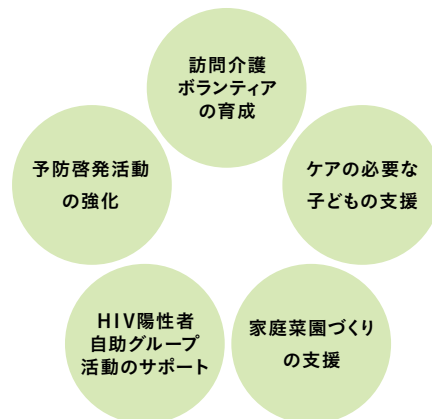
■家庭菜園研修

副作用の強いエイズ治療薬を飲むには十分な食事をとることが必須ですが、自宅に食べ物がなく命を落とすHIV陽性者もいます。そこでJVCは家庭菜園づくりの研修を行っています。

チルンザナニの活動地域（1村4地区）で、一部住民による大規模なストライキが生じ、4か月間、JVCが村の中に入れず活動できない期間が生じました。しかし、住民も村の出入りを厳しく制限されたことにより、自分たちの家庭菜園が食料確保の有効な手段となり、研修参加者全員が菜園づくりを継続していました。

ストライキ終了後は、過去の研修生のうち実践状況の良い20～30代の3人

JVCと現地NGOと 住民ボランティアで取り組む 5つの柱



↓
地域住民が
HIV陽性者を支え
感染を予防する。

が村内トレーナーを担うことと、その他メンバーの実践が定着することを目指して研修を実施しました。困難のなか、研修生が互いにサポートしあい、成果の定着と持続性の芽が見え始めています。

LMCCの活動地域では、2015年度評価で成果が定着していることが確認されたため、1ヶ月に1度のフォローアップを行いました。

■ケアの必要な子どもの支援

LMCC活動地域の2村で、親がいないなど、家庭環境により生活が困難な子どもたちが通うケアセンターとともに活動を実施しています。

これまでの活動で、子どもケアボランティアによるサポートとセンターのプログラム運営が充実してくる過程で、子どもたちが自信をもつようになり、自らケアボランティアをサポートするスタディーグループをつくるなど、自主的に行動する姿が見られるようになりました。これを受けて、子どもたちを単に「ケアを受ける対象」とするのではなく、自ら考え行動し、将来を担う存在として、その可能性を延ばすことを目指し、特に10代の若者（以下、青少年）がHIV予防啓発を含めた地域活動に参加し、自身や地域の将来について考える機会をもちました。

具体的には、約30～100人の青少年を対象に、HIV/エイズや性行動、環境や人権、リーダーシップなどに関する研修や、他地域で同様の活動をする青少年との経験交流を行いました。これらの学びを活かし、青少年自身がHIV予防啓発キャンペーンを2回企画・実施、述べ約200人の住民と村の子どもたちが参加しました。また、約100人の青少年たちが、家庭あるいはセンターの敷地での菜園づくり研修に参加、一部のメンバーが実際に食料を収穫し始めています。

これらは2015年度までに育成してきた村内トレーナーが指導とサポートにあたっています。この活動を支えていくために、センターの理事とケアボランティア約30人、保護者約60人を対象に、組織運営や人権、子どもへの接し方に関する研修を実施しました。

センター・学校・保護者が協力しながら、子どもたちの勉強をサポートする様子が確認されるなどを子どもたちをサポートしていく地域づくりが進んでいます。



各地域で家庭菜園が根付き始めている



低学年の小さい子どもたちも菜園づくりに参加



HIV感染予防や、女性が自分の意思で「NO」と言う権利などについて話し合う研修を実施



村の大人を対象に、子どもとの接し方や人権に関する研修を実施

2017年度計画

上半期は残された活動を実施します。延長期間終了に際して評価を行い、今後の活動のあり方について検討します。

参加者の声

レイモンさん (18歳)

1年ほど前から子どもケアセンターに通い始め、HIV/エイズやリーダーシップ、環境や家庭菜園について学びました。前は何に対しても怒りを抱えていましたが、研修を受けるなかで、他人を許容できるようになったことを実感しています。菜園づくりや、他の地域の子たちとの経験交流も面白かった。他の地域の子には会ったことがなく、どんな風に暮らしているのか、どんな問題を抱えているのか、お互い学ぶことができ、本当に貴重な経験でした。



レイモンさんのお母さん

一番変わったのは、態度です。以前は私の言うことにまったく耳を貸しませんでした。今では家での手伝いもしてくれるようになりました。嬉しいことです。

